

- **普段から使っているものを応用**

- ・ 普段から使っているからこそ、緊急時に使える。

⇒ 「QRコード」「LINE」といった「使い慣れた」技術

- **民間企業の知見を積極的に活用**

- ・ カスタマー至上主義 = 使いやすさ。

⇒ 民間企業を含めた委員会で議論

- **政府内での連携**

- ・ 無駄は省く。良い取り組みは共有する。

⇒ 内閣府防災(ISUT)、科技イノベーション(SIP4D、スマホリレー)、宇宙開発戦略推進事務局(準天頂衛星)と開発段階から連携

- **“想定外”を想定する**

- ・ 複合災害を前提とし、使えない状況を排除。

⇒ ネットワーク不全時にも使えるための技術を導入

(出典) 第3回SAFE委員会資料



(出典 電気通信事業者の平成28年熊本地震への対応状況 総務省,2016) (出典 東日本大震災における通信の被災状況、復旧等に関する取組状況 総務省 総合通信基盤局,2011)

(出典 平成30年北海道胆振東部地震に係る被害状況等について 内閣府,2018)

(参考) 災害時のネットワーク強度について2

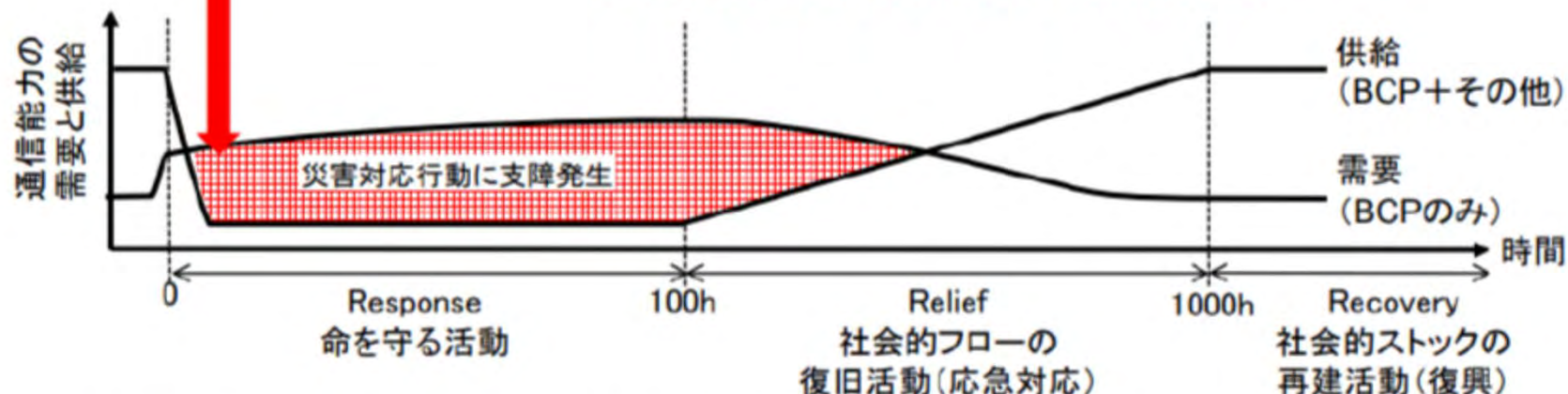
5

(出典) 第5回SAFER委員会資料

危機レベル	レベルの定義(投入される資源に基づく危機レベルの定義)
Lv 1 (Incident)	予め規定された対応に従って投入された資源で対応できる事象
Lv 2 (Emergency)	被災した組織が持つ資源を投入すれば対応できる事象
Lv 3 (Crisis)	近隣組織の相互支援の通常の見取り決りによる支援を受けて対応できる事象
Lv 4 (Disaster)	被災した地理的管轄区内にある全組織からの支援を受けて対応できる事象
Lv 5 (Catastrophe)	被災地をもつ中央政府によって二国間条約及び国際組織の既存の協約が実施される事象

[参考]危機対応標準化委員会, 世界に通じる危機対応, 日本規格協会, 20014.

通信事業者のインフラの「機能停止」×「応急対応待ち」が想定される
(つまりアドホック通信が必要とされる)



[参考]NTT・京大レジリエンス共同研究グループ, しなやかな社会への試練, 日経BPコンサルティング社, 2012.

[参考]NTT・京大レジリエンス共同研究グループ, しなやかな社会の創造, 日経BPコンサルティング社, 2009.